

令和7年度第1回尾道市総合教育会議会議録

日 時 令和7年12月25日（木）午後1時15分 開議

場 所 尾道市庁舎4階委員会室

午後1時15分 開会

○井上庶務課長 定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第1回尾道市総合教育会議を開会します。

初めに、本会議の主催者であります平谷市長から御挨拶をお願いします。

○平谷市長 それでは皆さん、こんにちは。午前中の教育委員会議に続き、午後からはまた総合教育会議ということで、少し長い時間になるかと思えます。平素から皆さん方には本市の教育行政の推進のために御尽力いただいております。厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

昨日、中学生のリーダー研修会、私が教育長の頃に始めたこの研修会ですが、今年度で21回目を迎えます。合併を機に横のつながりを強め、それぞれが交流し合いながら新しい尾道をつくろうということで継続してきたと思っています。今年度、子供たちに尾道が食材の宝庫であるということを学んでもらいながら、生産者、それから料理をする人、食べる人、尾道のみんなが「ウェルビーイング」になるように考えてほしいと、尾道パスタ考案事業を提案させていただきました。そして、昨日子供たちが各学校で考えたパスタを、県の農林水産局の向井局長にもこの研修会に参加いただいて、JA尾道市の組合長とか、皆さんで審査をやらせていただきました。子供たちは尾道ラーメンに次ぐ新しい尾道の特産ということで、これを2年生が引き継いで、尾道パスタという形で飲食組合と連携しながら取り組んでいくということが昨日確認されたんですが、卒業した後でもつながっていくかなということを思ったところです。

実は私、先ほどまで浄土寺におりました。境内地が国宝に指定されているお寺は日本で2か寺しかありません。それは清水寺と浄土寺だけ。その中で、室町時代に育まれてきた茶の湯を楽しむことができるのは浄土寺だけです。歴史的にすばらしい資源を活かしながら、新しいまちづくりをしたいということで、関係者と一緒になって浄土寺へ伺ってきたところです。ここは入山料取っていないので自由に入れます。尾道のお寺にはみんな自然に入って、生活の一部になっており、その高い価値に気づかずに過ごしております。そのようなことも含めて、食材の宝庫というのと合わせて、子供たちに尾道の文化財の持って

いる価値も学ぶことが必要なのかなということを改めて思ったところです。

本日は第1回目の総合教育会議ということですが、早いもので今日が12月25日、あと1日で仕事納めということになりますけど、教育委員会にとりましても、尾道市にとりましても、本年は非常に大きな変革の節目の年でした。とりわけ4月にみなと小学校・みなと中学校が開校いたしました。新しい子供たちの教育環境をつくるということで、尾道市としては小中一貫教育校としてスタートをしました。

また、因島の重井小学校・重井中学校についても、令和9年の統合ということで、今既にそういった方針の下に進めているということでございまして、教育も学校の再編ということにつきましては非常に大きな節目の一年だったと思います。また、来年度から中学校全員給食にむけて、尾道市学校給食センターも進めているところでございます。

また、大学の図書館整備についても、恐らく来年の10月ぐらいにはオープンを迎えるところまで来たのではないかと考えています。

ということで、今年は尾道にとっては大きな節目だった年だと思いますし、教育委員会の委員の皆様方には貴重な意見、提言をいただきながら進めてまいりました。本日は2つのテーマ、「夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成」と「尾道市の学校給食の推進」をテーマに話を進めていけたらと思っております。

グローバルという言葉が出ましたが、インバウンドでまちを訪れる人、ビジネスでなくて観光で訪れるまちは、広島県の中で広島市と宮島、そして尾道ということになるんですけど、そういう環境の中で、身近に外国の人がいて、それをどのように教育に取り組んでいくのか、大きいテーマだと思います。

給食につきましては、5,200円までは完全無償化とっておりましたが、これが急遽、国が2分の1、県が2分の1という方針が決まりましたので、今、県内の市町の給食費を全部調べて、5,200円の中で収まるのか、6,000円ぐらいの市町もあるとか、それぞれ状況によって違うところがあるので、市町村会と一緒に県と協議する課題という認識で、取り組んでいるところです。

今日は2つのテーマ、これからの子供の育成につきまして、グローバル社会と学校給食の推進ということで御議論いただいて、貴重な意見をいただいたらと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

○井上庶務課長 それでは議事に入ります。

尾道市総合教育会議運営要綱第3条に基づき、これより市長が議事進行を行います。

○平谷市長 それでは、私が議事進行を行いますので、よろしくお願いします。

本日の会議録署名人は宮本教育長を指名いたします。

本日の会議のテーマは2つ、「夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成」と「尾道市の学校給食の推進について」としております。

それでは、1つ目のテーマである、「夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子供の育成」に入ります。

本市におきましては、教育大綱の基本理念であります「尾道に愛着と誇りを持ちグローバルに躍動する人づくり」を実現するため、学校教育の柱として『夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜く子どもの育成』を掲げております。この激動の社会情勢の中で、子供たちが自らの夢と志をしっかりと持ち、主体的に人生を切り開いていく力の育成は本当に重要であると考えております。

それでは、今までの取組ということで、事務局から資料も準備されているようですので、まずは説明をお願いいたします。

○金子教育指導課長 失礼いたします。それでは、これから本年度の尾道教育の取組を紹介させていただきます。スライドを用意しておりますので、また画面も用意しておりますので、見ていただければと思います。よろしくお願いいたします。

尾道教育総合推進計画では、夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜く子どもの育成を教育政策の柱として掲げ、各施策について学校と協力しながら、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を図っております。

また、昨年度から「グローバル・ローカル・尾道らしさ」を推進する事業をスタートさせ、尾道の子供たちが尾道を愛し、誇りを持ち、尾道に貢献しようとする意欲の向上を目指した取組を推進しております。

本年度は、尾道市合併20周年となり、本市が進めるさくら尾道プロジェクトの一環として、新生尾道教育のスタートの年と位置づけ、尾道教育が目指す5つの価値観、5バリューを掲げました。情熱、子供たちの未来、尾道教育の未来のために注ぐ情熱。行動、自ら率先して未来につながる改革を実行する行動。挑戦、尾道教育の新たなステージ、未来への挑戦。貢献、子供たちの未来、ふるさと尾道への貢献。そして継承、尾道教育や学校文化、尾道らしさの未来への継承。この5つを掲げております。児童生徒、保護者、地域の皆様をはじめ、尾道教育に関わる全ての人たちとこれを共有し、尾道教育の深化、発展につながるよう、取り組んでいるところでございます。

それでは、「グローバル・ローカル・尾道らしさ」を推進する事業の具体的な取組について紹介をいたします。

まず、グローバル編です。グローバル編は昨年度からスタートしております。義務教育修了時に、日常生活において英語でやり取りができること、これを目標にして進めております。

具体的な取組としては、授業外の実践として、例えば放送委員会などによる給食時間や下校時の英語放送、昼休憩の英語サロンなどを行い、英語が生活の一部になるよう、学校全体での取組を進めています。

また、授業内での活動としては、イングリッシュ・デイでは複数のALTと英語を使った活動を行ったり、台湾との交流を促進するなどして、児童生徒が英語に触れる機会を増やす取組などを行っています。

続いて、ローカル編です。ローカル編は本年度からスタートしております。将来にわたって子供たちが尾道への思いを抱き続け、尾道で活躍することができるよう、「尾道から世界へ そして尾道へ」を合い言葉に、全ての子供が「自分の住んでいる地域・尾道のことを好き」と答えることができることを目標に取り組んでいます。

具体的には、ふるさと学習を充実させ、尾道の教育資源と出会い、触れ合い、体験・交流することを通して尾道への愛着や誇りを醸成するための取組や、地元企業による出前授業や職場体験学習などを通して夢や志を抱き、尾道に貢献しようとする意欲を高めるための取組などを行っています。

本年度から尾道市の名誉市民10人を取り上げた教育活動を進めていますが、本年度は尾道市の水道事業100周年であるため、水道事業に多額の私財を投じた山口玄洞や、水道管を初めて国産化した久保田権四郎を取り上げた学習は全校で計画するようにしています。

子供たちに尾道のよさを学ばせるためには、指導者である先生方にまずは知っていただく必要があると考えてもいます。そのために地元企業への職員の見学会、初任者研修会、教職経験者（5年目）研修会では講師を招聘し、尾道の歴史や名誉市民について学ぶ内容を実施するなどして、教職員の地域素材理解のための研修も実施しております。

最後に、尾道らしさです。尾道らしさとは、過去から継承し、今も大切にしている尾道教育と位置づけております。

教育の中立性と公開性を基盤とした法規・法令等にのっとり、組織的に学校運営を行うことは非常に大事ですので、入学式、卒業証書授与式などの儀式的行事を大切にしています。

また、尾道らしさの取組の特色として、子供たちが切磋琢磨しながら互いを高め合う音楽コンクールをはじめ各種コンクールの開催。自主性、主体性を育

てる2分の1成人式や立志式の実施。ふるさと尾道に貢献する意欲を高める中学校リーダー研修会。そして、そのほか、尾道みなと祭のええじゃんSANS A・がり、灯りまつりについて、市内全ての小中学校が参加していることも挙げられます。

スライドに示しているこれは中学校音楽コンクールの様子です。市内全中学校が参加しております。主に3年生が出場しますが、学校規模によっては全校が参加している学校もあります。全校生徒3人の学校も、今年度、会場に響き渡る声で堂々と歌う姿は感動いたしました。音楽コンクールを通して、目標に向かって取り組む過程や、他校の生徒の合唱を聞き合い、頑張りを認め合い、高まり合うことも尾道市が大切にしている教育です。

これは尾道市中学校リーダー研修会が令和5年度と6年度の2年間をかけて作成し、昨年度完成した尾道かるたです。中学校リーダー研修会は年2回、各中学校の生徒会執行部が一堂に会する研修で、各校の取組を交流したり、本市の地域貢献に向けた取組を協議し、実行したりしています。このかるたは各中学校区の「私たちの町の宝物」をテーマに、読み札や絵札を中学生が考案し、作成したものです。子供たちの郷土愛、地域愛があふれたかるたが出来上がりました。

また、リーダー研修会の取組として、住吉花火まつりの翌日、8月3日早朝、市内から約400人の中学生が参加し、尾道のまちをきれいにしてくれました。中学生のすばらしい貢献です。

そして、スライドに示しているのは、冒頭、平谷市長様より紹介していただきましたけれども、昨日開催した中学校リーダー研修会の取組の一環の写真です。新たな尾道の食のストーリーを提案するということで、中学生が尾道市の特産品を活用した尾道パスタの開発に取り組みました。スライドにはグランプリで受賞した学校のメニューを紹介させていただいております。

やまなみ部門は「尾道 海の恵パスタ」、そしてもう一つが、タイトルが長いんですけども、「甘じょっぱさが癖になる！いちじくと生ハムの濃厚クリームパスタ」、「今日の敵は明日の友？エイとあさりの潮風香るパスタ」、ネーミングにもこだわったおいしいパスタでした。

そして、しまなみ部門では太鼓パスタということで、麺を自分たちで作ってスープパスタを作ってくれております。

このように子供たちがそれぞれ地域の特産を生かし開発した自慢のパスタを披露し合っております。

これは尾道みなと祭の「ええじゃんSANS A・がり」の様子です。市内全

中学校が参加しています。PTAの皆さんの御協力をいただき、どの学校も学校の自慢や地域の特色を生かした振りつけや掛け声、衣装を工夫しており、毎年子供たちの笑顔と躍動感のある踊りに元気をもらっています。

以上、本年度の尾道教育の取組について紹介をさせていただきました。

また、令和5年度に本市で発生したいじめ重大事態について、尾道市いじめ防止対策委員会からいじめ重大事態調査報告書が5月に提出をされました。教育委員会では本事案を極めて重大なものと受け止め、調査委員会からいただいた再発防止に向けた提言に基づき、現在、いじめの再発防止に向け、学校が子供たちにとって安全で安心して過ごせる場となるよう、いじめは絶対に許されない行為であるという認識の下、子供たちがお互いを尊重し、思いやりの心を育むことができる教育に全力で取り組んでるところでございます。

今後も尾道教育総合推進計画に基づき施策を展開していくとともに、これまで築いてきた尾道教育のよさ、尾道らしさをしっかりと継承しつつ、グローバル・ローカル・尾道らしさをキーワードに、学校、保護者、地域と一体となって、子供たちや保護者の皆様が尾道で学んでよかった、学ばせてよかったと思えるような教育を、情熱を持ってつくり上げていきたいと考えております。

説明は以上です。

○平谷市長 ありがとうございます。もう一度、先ほどのパスタのスライドをお願いします。私はやまなみ部門の審査をしまして、高西中学校と浦崎中学校が同点だったので、2つがグランプリになり、しまなみ部門は、吉和中がグランプリでした。よくぞエイとアサリを組み合わせたと、アサリの敵はエイなのに、それが今の「今日の敵は明日の友」という感じでうまくまとまりました。海の幸を活かしながら、地元の素材は何かを見詰めながら取組をしてきて、そういったことを子供たちが認識してくれて本当に嬉しかったです。また、尾道ラーメンに次ぐ尾道パスタとなるように、提案をいただいたということでした。

それから、今回のいじめに関しては調査報告にあるように、事務局も認識されていると思いますが、初期対応が非常に重要だということです。学校、組織全体の中で共有できる風土を形成して、特に小学校は担任が抱え込んで対応が後手になるケースとなりがちなので、その辺りを十分対応していく必要があると思っています。どうでしょうか、濱本委員さん。

○濱本委員 初期対応を誤ると後々までいくので、その辺りは教員の中でしっかりとその大切さというのは型に落とし込んでいく、二度とこういうことがないように対応していくことと、やっぱり記録、私も何回か学校現場の中で記録が

ないということで大きなことになったので、その辺りも含めてしっかりと再発防止に向けて動いていってほしいと思います。

○平谷市長 奥田委員さんはどうですか。

○奥田委員 市長も言われたように初期対応が大きいということもあると思うんですけども、基本的に生徒一人一人の動きをしっかりと把握して、担任が愛情を持って日々接していたら、これはおかしい、この生徒の表情がちょっとおかしいとか、そういうところに気がつくはずですよ。日頃の教員としての心構えとか、そういう感覚を磨いて、一人一人の顔を見ながら日々過ごす教員が育っていくというのが、長期的に一番ベースになるのではと思いました。

○平谷市長 一番難しいところです。村上委員さんはどうですか。

○村上（節）委員 村上です。私も奥田先生とほぼ同じですけど、先生たちに余裕がないと子供たちに目を向けるとか、細かい動きとか、細かい人間関係が動いたなということに気づかないのかなと思うんです。先生たちのプライベートも含めて余裕のある時間のつくり方とかということを意識して過ごしてもらえたらいいのかなと思います。

○平谷市長 村上正則委員さん、どうぞ。

○村上（正）委員 村上です。そういう事態が起こったときに、担任の教員が自分で評価して、判断して決めないとか。要は、すぐに周りの上司とか校長先生に報告、相談をする。そういう情報を学校の中で共有するということが大事ではないかなと思います。ついつい自分の判断をしてしまうと、「ああ、これは大したことじゃないんじゃない？」というようなこともあるので、周囲の人たちに相談するということが大事ではないかなと思います。

○平谷市長 学校全体でそういった雰囲気をつくり出していくということも大切ですけど、もしそういうことに出会ったときの対応の仕方もしっかり確認しとくということですよ。子供が学校へ来たときに様子を見て、ちょっと今日はどういうようなことも、見てやることができる力も必要だと思うんです。その辺も含めて、事務局がまた課題整理されてると思うので、こういった事案が起きないように、今後ともよろしく願いをいたしたいと思います。

そしてグローバル・ローカル・尾道らしさというのを説明していただいて、取組をしていただいているんですけど、昨日、向島中学校に行かせていただいたときに感心したのは、子供たちが描いている自画像とか、本当に一人一人がものすごく丁寧に書いていて、掲示物一つ一つ見ても、学校の子供たちが目標を持って取り組んでいるなというのがうかがえたんですね。学校が荒れていると、児童生徒の作品が掲示できる状況ではなくなるんです。なので日々の教育

実践、取組が大切だということです。これからの尾道の学校現場、教育において、皆さん方が考える大切にすべきこととはどういったものか、御意見をいただけたらと思います。村上節子委員さん、いかがでしょうか。

○村上（節）委員 午前中の会議の中で、青少年育成事業でしたか、ドローンを使った体験型事業というのがありました。お昼休憩に他の委員さんとかとも話をしながら、ああ、やっぱりこれかなというのが私の中にありました。体験をして得たものというのはすごく長きにわたって子供たちの中に残っていて、私の子供が向島中学校で学んでいたときにも、駅に出向いて外国の人に、「何か困ってることはないですか」って英語で聞いて、それに対して困っていることを解決していくという。それはいまだに残っているし、力になっているなどということがあるので、時間的に少し難しいかもしれませんが、もっともっと体験ができるような学びの場というものがつくれたらいいのかなと思います。

○平谷市長 続いて村上委員さん、どうですか。

○村上（正）委員 短期的には子供たちが自分自身の夢や将来を語れる場を持つ。今でも2分の1成人式とか立志式ってあると思うんですけども、もう少したくさんあってもいいかなと。将来的には今度成人式があるんですけども、そこで、尾道で育った子供はこんなになるんだなと市民の皆様に見ていただいて、感動と言ったらおかしいですけども、そういうところをちゃんと見ていただきたい。その子供たちは尾道で育ってよかったなと思えるような教育現場になればいいなと思います。

○平谷市長 奥田委員さん、どうですか。

○奥田委員 私はグローバルということで、この間、何か文書を読んでいましたら、ヨーロッパの子供たち、人たちはグローバル感覚が優れてる。なぜかという自分の国の商品作るときも、これは他国で売れるか、世界で売れるかということ常々考えて商品開発をする。それに比べて日本の場合は、日本人に売れるか、地域で売れるかだけを考えると、島国の中で考えるから、結果的にそういう効率が悪い、生産性が悪いという内容でした。やっぱり大きな発想の転換というんですかね、グローバルという題目じゃなくて、本当に世界の人はどういうことを求めて、どうすれば世界に通用するか、身につけていけないといけない段階に入ってきているんじゃないかなと思います。

尾道は今、外国の方がどんどん来ておられるので、その資源を教育の中で接点を持てるようなことができないかなと思います。というのは、先ほどもありましたように、浄土寺で文化財を語るときに、それは中学生たちが英語で外国人たちに分かりやすく努力して語っていますというような取組とか、そ

ういう英語でしゃべれて、コミュニケーションできたという喜びが、これはすごい自信になるし、学ぶことのエネルギーになると思うので、ちょっとそういう仕組みを、せっかく大勢の外国の方が尾道に来ておられるので、その辺の接点の仕組みをうまく学校現場で活かさないかなと思います。以上です。

○平谷市長 濱本委員さん。どうぞ。

○濱本委員 尾道でずっと教員をやってきて、そして少し現場から離れて、それを振り返ったときに、本当、キャリア教育だなと思ったんです。子供たちにどう生きていくかということを考えさせていくときの、何か大きな取組になったなというのは感じます。これはこれからも大事にしていきたいなと思います。

それから、夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜くというこの言葉を、子供たちが何か自分がわくわくすることと、それから人の役に立つこと、郷土の役に立つこと、母校の役に立つこと、人生の岐路においてどう生きていくのかなというようなことが見つけられる教育というのを大事にしていだけたらいいかなと、大事にしていきたいなとは思いました。以上です。

○平谷市長 グローバルという感覚で言えば、サイクリストが土産で買って帰るものの中に、冬なのにTシャツがある。そう言えば、南半球は夏だなということで、ビジネスの感覚も先ほどあったように、世界を、全体を意識していくようなものでないと駄目ですね。おまんじゅうは買って帰らない。それはだんだん今のような体験で、ちょっとずつ皆さんが外国の人が来ることによってビジネスの感覚が変わってきているということにつながるんだと思います。それからツーリズムという言葉が出てくるんですけど、自転車で来る人たち、バックパッカーの人でもそうなんですけど、旅をするということと合わせて、尾道に来たとき、日本の文化に触れたいという思い、責任のあるツーリズムと言うことで、ボランティア活動であったり、そういう人たちもいるので、その辺りのところをうまく学校につなげていくという仕組みができると、さっき言ったような学校教育の場で体験であったりとか、いろいろなお話をしてくださる方はたくさんいるのではないかなというように思っています。

昨日、第三の居場所ということで、学習支援・生活支援をしている向島のリーフに、送迎用の自動車1台、日本財団から寄附していただきました。多くの子供たちは家庭に課題があって、夢とか希望がもてない状況だったのが、そこで温かく見守られ、いろんなことを身につけていく中で、夢とか希望を語れるようになる。先ほど話があったように、子供自身が将来の夢を語れるようになることが大切ということで、尾道市が取組んでいる第三の居場所というのは、

非常に学校教育の面においても支援になってきているのかなと思っています。

そして「体験ができる場」という話は重要なことですが、私は毎朝の散歩、尾道高校の正門から裏門へが散歩コースなんですけど、この間、野球部の北須賀監督とグラウンドでお話ししているとき、野球部の生徒がいなくて、この時間は何をしているんですかと聞いたら、「『到知』という雑誌がありますよね、人間学という、その人間学の本を読んで、学んでいます」と言うんです。それで、北須賀監督は、野球で勝って強くなりたいというのもあるんだけど、その野球を通じて人間力を高めるというのが、自分としては野球を通じて、それから社会に出て、自分が社会の役に立つとか、そういうことを身につけるのが大切だと言われています。ラグビー部の田中監督も、同じように人間力を高めるという指導をされています。先ほど言われた体験ができるのもやっぱり一つ一つのいろんなクラブだったり、文化部だったりと思うので、多様な体験ができる場は必要なんだなというように思っています。

それから、この間、県の教育長と話をさせてもらったときに、市内の高等学校でイベントをするというので、私がそこへ行って挨拶をしたんですが、生徒誰一人、挨拶をしなかったんです。その後、校長先生とお話しする機会があったんですけど、それはマナーとして最低限、身に付けることで、先ほどの野球部じゃないですが、尾道高校の野球部は立ち止まって帽子取って、必ず挨拶する。自転車は1列でとか、そういう身につけるところが少し足りないので、これから社会に出ていくなかで、きちっとしたものを身につけるように指導してほしいなということをお話ししました。だから夢と志を抱くという前に、尾道の子供たちが、きちっと挨拶ができるとか、そのようなことは身につけてほしいなと思います。

例えば、横断歩道で待っていたら、車が止まるのか、無視して行くのか、尾道は横断歩道で止まってくれる人の率が多いまちなんです。何の気なしに通過するまちもあったりするんですけど、そういった規則を守るという文化を日常生活の中で子供は見てるので、そういった大人の在り方も大切だなと思います。学校教育は子供が社会に出て役に立つということなんで、いろいろなことを、細かいかも分かりませんが、気づいたことは教育委員会の事務局に声をかけていただければと思います。

奥田委員さん、最近気づいたことありませんか。

○奥田委員 市長さんが言われたように、挨拶とか、礼儀とか、マナー、基本部分をしっかり指導するというのがやっぱり学校教育の一番のベースだと思います。非常に耳の痛いことをお聞きしたなと思います。

それからグローバル・ローカルに戻りますが、尾道の名誉市民の方から学ぶため、総合的な学習の時間の活用ということで、これは素晴らしいことじゃないかなと思います。尾道のことを知らないというか、尾道の名誉市民を通して、その業績を学ぶとともに、どうしてこの方々が素晴らしい実績を上げられたのかということを中心に学んでいくことが、自分の生きる力になるんじゃないかなと思うんです。

小林和作さんは和作さんで、どうしたらああいうふうにみんなから尊敬される画家になれたのかとか。平山郁夫さんは瀬戸田とどう関わっているのかとか。山口玄洞さんが企業人として成功されて、そしていろんなところへ寄附されたのかとか。そういった生きざまを理解するということまで、主体的に学んでいける総合的な学習を積み上げていただければなと思うんです。

やはり上から与えられて、この人はこういう人で、こういう実績があって、それを講義で理解するんじゃなくて、子供たちがいろいろ本を読んだりとか、自伝を読んだりとか、主体的に考えることによって郷土の偉人を自分なりに理解するという、そういう在り方を今後また小学校、中学校の中で、総合的な学習時間の1つの柱、こればかりやるわけにいかないでしょうけど、大きな柱として継続的にやって欲しいと思います。小学校3年まではここまで学んだ。今度は小学校4年になって、また小林和作さんについて研究したらこんな発見があった。また小学校6年で見ると、こういうところがすばらしかったと、深まっていくというか、系統的で長い時間での指導になるような形を学校現場の中でつくっていただけたらいいかなと思います。

○平谷市長 村上正則委員さんはどうですか。

○村上（正）委員 村上です。先ほど奥田委員さんの言われたとおりで、今度、美術館で圓鏝さん、小林さん、平山さんの展示があるので、ぜひ小学生とか中学生には見ていただきたいと思います。それから、私は因島ですけど、久保田権四郎さんとかもぜひ伝えていただけたらなと思います。

それともう一点、先ほど市長さんがおっしゃられた規範意識ですが、この前、ある校長先生から聞いたんですけど、市外の方で、子供が横断歩道の前で立ってたので止まったら、向こうに渡って帽子を脱いで、深々とありがとうと挨拶をしてくれたと。それはすごく感動したので、その学校に電話したんです。嬉しくて、心洗われるような思いだったと言われたようです。それ、非常にうれしいことだったので、子供たちにも伝えました。ですから、そういうところから、非常にマナーができていて、実際にできた話を伝えるのもいいかなと思います。以上です。

○平谷市長 村上節子委員さん、何か他にないですか。

○村上（節）委員 先ほどの挨拶の件で言うと、今、教育委員させてもらって2年ちょっとになるんですけど、小学校、中学校、どこの学校に行ってもみんなよく挨拶をしてくれるし、笑顔があふれてるといふ、嫌な雰囲気を感じたことは一度もなく、それは先生たちの積み重ねのたまものだなと思っています。

要望でもないですが、今の教育委員会というのは小学校、中学校が主になると思うんですけど、尾道の教育というのは保育所、幼稚園とか、そこから始めましょうというのをちゃんと施策として上げてますよね。何かもっともっと踏み込んで、協力というか、情報交換をしっかりとしてもらって、幼少期の頃からの心を、情緒を育てるとか、何か一緒に子供たちを育てていけたら、不登校とかも減るんじゃないかなと思うので、そういった協力体制みたいなものを密にしてもらえたらいいかなと思います。保育所、幼稚園とかの情報も、こういった会議の中でも共有できたらいいかなと思います。

○平谷市長 今、言われた就学前教育について、私のころには就学前教育に指導主事さんというのはいなかったんですよ。学校教育には教育内容を指導したりする指導主事さんがおられたんですが。それで、尾道市は県内では一番最初に、保育指針とか教えたいんだけど、教え方が分からないというんで、そういった指導ができる方を配置して、義務教育との接続がきちっとできるような取組をやってきたんです。

それと尾道の特徴は、民間と公立の就学前の関係者が一斉研修ができるんです。まさに保育所と幼稚園の垣根がないんです。だから、認定こども園化がスムーズに進んでいる。来年度は公立幼稚園が百島1園のみになるんですよ。あとはほとんど認定こども園になる。就学前の連携が、公立、民間問わず、幼保を問わず、しっかりと連携できるというのは大切なことだと思っています。

それからもう一つ、県立学校とのつながりというのを私たちは持っています。退職された学校長さんを教育アドバイザーということで、尾道市の教育委員会に入ってもらって、高等学校と連携をさせてもらっている。今回、高等学校の再編でマスコミにどんと出ましたが、その内容をすぐにアドバイザーと連携を取りながら、高等学校の同窓会とかPTAの会長さんとかと整理しながら、尾道市の意向を展開していくという形でやったんです。アドバイザーを配置して、就学前とか高等学校との連携も取り組んでいっているんで、100点満点は難しいかもしれないけれど、意識としては大切なことだと思っています。教育全体として就学前から尾道市立大学まで、トータルとして尾道は教育を大切にしまちづくりができたかなと思っています。

子供は、尾道を代表、表現するところでもあるんで、先ほど言われたように、挨拶が1つできるとか、横断歩道で止まって帽子脱いで挨拶するとか、それはもう尾道の1つの特徴ではないかなと思いますし、そういった取組をしていけたらなと思っています。

濱本委員さん、これだけは言うておかないとというのではないですか。

○濱本委員 子供たちの主体性とかチャレンジ精神、そういうものをより求めていきたいなということと、グローバルとなったときに、自信を持って話せるという力をつけさせてあげたいなということ、ぜひともお願いしたいなと思います。以上です。

○平谷市長 英語ではI thinkと言うでしょう。私が思うということを実に言うんですね。日本人は最後がだらだらとなる。その言葉の持つ発し方によっても、ちょっと認識が違ってくるんだと思うけど。日本独特のすばらしい文化というのは教える機会はあまりないのかな。今の学校現場の中ではどうでしょうか、教育長さん。

○宮本教育長 そうですね、大切にしていかなければいけない文化、これを学校教育でしっかり教えていかなきゃいけないんですけど、やっぱりそれには先生方、教職員がまずその文化とか、先ほどの人間性の部分ですね。若い先生が増えていますので、そういった若い先生方に日本のよさ、尾道のよさを我々が話をして、理解をしていただいて、子供たちにしっかりと教育していただけるような、人材育成といいますか、教職員の研修、これをしっかりやっていかなきゃいけないなと思います。

○平谷市長 浄土寺でのお話ですが、佐木島にNOT A HOTELといういわゆる別荘の宿泊施設が3棟建つんですね。その事業をやっている一人に尾道出身の子がいるんで、それで話をしてて、3月31日がオープンなんですけど、このHOTELの中で一番外国の旅行者が利用するのが瀬戸内だというんですよ。そしたら、今のアクティビティーをどうやるか、楽しんでもらうかということなんですけど、歴史的なことがさっぱり分からないんですね。なので、浄土寺に案内して、そしたら浄土寺さんが、多宝塔、国宝だというような話の中で、国宝のいわゆる塔が尾道に2つある。もう一つは瀬戸田の向上寺の三重塔。あと重要文化財の塔が2つある。西國寺と天寧寺の塔。それを言われて、その人たちは全く知らなかったんですね。

もう一つは、室町時代に、足利に庇護されながら、国の重要文化財とかになっているのが浄土寺なんですね。西郷寺、西國寺、常称寺、天寧寺ということで、この市街地の中に13ある。このようにエリアで凝縮してるのは日本一じゃ

ないですか。室町時代に発祥した文化で、能楽、それから茶の湯、それから生け花、もう一つは香道。でも、これをずっと引き継いできてるのが尾道のお茶会だったりするわけです。そこからの歴史を受け継いできているまちだと言われて、浄土寺さんが説明されて、その担当が「ははあ、勉強になりました」ということなんです。じゃあそういう内容を学校の先生が知ってるかと言ったら、恐らく。

○濱本委員 知らない。

○平谷市長 知らないんですね。そういう尾道の持つ歴史的な価値みたいなものを学ぶ機会が、また逆に指導する側が身につけると、子供たちに話すことが変わるんじゃないかなというように思うんですね。尾道らしさを知る1つになるかも分からないというようなことで、美術館長さん、よろしくお願いします。

そういうことで、これまでに頂いた、皆さんの意見を大切にしながら、取り組んでいただけたらと思います。

それでは次に、給食ですね。4月から中学校も全員給食ということになるんですけど、これについて、庶務課から説明をお願いします。

○井上庶務課長 失礼します。今、お手元にお配りしてる資料2-1を御覧ください。こちらに3点まとめております。まず1、尾道市の学校給食の基本方針ですが、これにつきましては1、2、3とありまして、安全・安心でおいしい給食の提供、学校給食施設の計画的な整備、安定供給できる施設配置ということで、令和3年3月に策定をいたしました尾道市学校給食施設整備計画、こちらに定めてある基本方針でございます。

続きまして、2のこれまでの取組ということで1から6まで挙げております。

まず(1)のデリバリー給食ですが、これは平成26年から始まっておりまして、その後、最初は3校で始まって、それ以降、拡大をしていったんですが、その後、一部の学校では給食の提供体制が整ったということで給食に移行しております。現在は7校でデリバリー給食を継続していますが、今年度でこの給食は終了しまして、来年度から中学校全員給食に移行をいたします。

次に、(2)学校給食の公会計化です。こちらについては今年度から学校給食費の公会計化を実施しております。これまでは各学校が保護者から給食費を集めていましたが、市が徴収や管理業務を担うことで、学校現場の負担が軽減され、口座振替の選択肢が増えるということで保護者の利便性向上にもつながる、そういったメリットもございます。現在、ほとんどの保護者の方が口座振替を御利用いただいております。

次に（３）給食調理場施設整備・稼働、ここでは４つ、整備を挙げさせていただいております。１つ目、２つ目の調理場の親子化整備でございますが、それぞれの小学校から近隣の中学校へ給食を配送できるよう整備を行ってまいりました。また、３つ目、４つ目の因島学校給食共同調理場、尾道市学校給食センター、こちらにつきましては、来年度からの中学校の全員給食に向けて、施設の整備を行っているところでございます。

続きまして、（４）の中学校全員給食の準備ですが、令和８年度からの中学校全員給食に向けて、ハード面、ソフト面、両面で準備を進めております。ハード面については、因島と尾道市の学校給食センター、こちらの整備を行いました。また、併せて配送先の学校、こちらの受入体制も施設整備を進めております。ソフト面では、配送時間とか、配膳方法、こういうところも学校と協議を進めているところです。

また、中学校の全員給食の実現に当たりましては、これも公立の施設だけではなくて、民間施設も活用して給食と同じ形で食缶方式で給食を提供する、こういった取組も進めております。

次に（５）地産地消。尾道市の食材としては、一番大きなもので御調のお米がありますが、それ以外にも、かんきつ、ショウガ、ワケギ、モヤシ、トマト、たくさんあります。今年度から給食の献立は市内統一で行っておりますが、食材の確保については、それぞれの地域の生産者や納入業者から仕入れております。生産者が高齢化で必要量が確保できないといった課題もありますが、今後も関係者とも連携して取り組んでいきたいと考えております。

（６）のその他につきましては割愛をさせていただきます。

続きまして、３番の取り組むべき課題でございますが、（１）食の安全性の確保ということで、まずは給食の提供については衛生面、こちらが最も重要なものであると考えております。調理現場での衛生管理の徹底はもとより、調理してから２時間以内に提供、喫食が求められていることから、国の衛生管理基準にのっとりまして、適正に給食業務を行っていく必要があると考えております。

続きまして、（２）の給食の安定供給ということで、尾道市の現在持っている学校給食施設、こちらは１７施設でございます。共同調理場、単独調理場、合わせて１７施設でございます。この中には老朽化が進んでいる施設もありまして、修繕への対応、あるいは児童生徒の数が減っていくということで、食数の減少などの課題に直面している中で、施設の効率化、これも見据えながら安定供給に向けて取り組んでいく必要があると考えております。

次に、（３）の公会計化の適正実施ということで、今年度から始まりましたが、来年度からは中学校の全員給食が始まるということで、新たに給食がスタートする中学校に対しても公会計化の拡大を図っていく必要があると思っております。

続きまして、（４）中学校全員給食、こちらにつきましては、新センターが完成しております。今後、来年の４月の稼働に向けて供給体制を構築していきたいと考えております。

次に、（５）食育の推進ということで、食育の推進に当たっては、学校をはじめ、家庭や地域、生産者など、様々な人たちと連携を図りながら食育の推進に努めていく必要があります。

次に、（６）給食無償化への対応、保護者支援ということで、現在、国におきまして、令和８年度からの給食の無償化、小学校の無償化に向けて準備が進められておりまして、詳細が示された段階で適切に市としても対応できるよう準備を進めていく必要があるかと考えております。

また、現在の給食費につきましては、国の交付金も活用しながら、保護者の負担を据え置いているという状況がありますので、引き続きこういった交付金なども活用しながら、本市としてできる子育て世代の支援を検討していく必要があるかと考えております。

最後に、（７）食物アレルギー対応ということで、より安全・安心な給食提供を目指して、来年度から食物アレルギー対応について見直しを行ってまいります。児童生徒や保護者の皆様に御理解いただくよう、丁寧に説明をしていく必要があるかと考えております。

資料の説明については以上でございます。次にスクリーンを御覧ください。

まず、お示ししているのがデリバリー給食ということで、こちらについては、これに牛乳が加わって、270円で提供をしております。本来であれば330円ですが、国の交付金を活用して270円となっております。

そうですね、月１回はこういったパンの日もございます。

次に、因島の学校給食共同調理場です。こちらは令和５年、６年に整備をしまして、令和７年、今年度から給食の提供を始めております。因島の北部、因北中学校、重井中学校においては、今年度から給食を開始しております。

こちらは尾道市学校給食センターです。今、高須に建設をしております、もう建物自体は完成しております。小学校４校、中学校４校の計８校に給食を提供してまいります。約2,300食の提供でございます。

こちらは共同調理場から給食を配送するときのトラックへの積込みの写真で

す。トラックにはパワーゲート、いわゆるタラップがついておりまして、トラックの荷台の高さと同じプラットホームからトラックに積み込んでいくような状況でございます。

これは配送先、学校です。因北小学校ですが、これも同じようにトラックの荷台と同じ高さのプラットホームがありますので、タラップを下ろしてコンテナを運び出しております。つづいて因北中学校。こちらのプラットホームにつきましては、荷台と同じ高さにはできないということで、リフトを下ろして、そこからコンテナを運び出す。配膳室までは段差がないような、そういった整備をやっていく必要があります。

こちらは御調中学校のランチルーム。御調の学校給食センターと併設しております。作った調理をそのままここに持っていけるような状況があります。1年生はここを利用し、2、3年生は各教室で食べていると聞いております。

次に、地場産物の活用ということで、一番大きな地場産物としては御調のお米でございますが、そのほかにも、ここにありますように、かんきつであったり、因島のスイカ、野菜類、こういったものを給食に活用しております。

こちらは給食の調理風景でございます。衛生管理には十分気をつけながら調理を進めております。

給食の内容でございますが、主食、副食、牛乳ということで、主食の場合は御飯が週4回、パンが週1回となっております。

こちらの写真は給食の人気メニューということで、こちらは御調で人気のあるメニューとなっております。一番左上はチキンカレー、その下がトマトのスパゲッティ、尾道全体で言うとタコボール、これも非常に人気のあるおかずだと聞いております。また、郷土料理も定期的に提供しております。

こちらは配膳の様子ということで、こういった形で、教室で皆さんと一緒に給食を食べているような状況でございます。

これは学習発表会の様子です。この発表会の前に、御調のコマツナの産地の見学と給食センターの見学をされたということで、それを学んだ1年生の子が、こういった学習発表会で発表されています。

これは因島、ソラマメのさやむき体験で、2年生が収穫したもので体験しているところでございます。

最後に学校給食の目標ということで、学校給食法第2条に規定をしているものでございます。こういった、1番、健康の保持増進。2番、望ましい食習慣の定着。3番、みんなで楽しく食べる。4番、生命、自然を大切にする。5番、感謝の気持ちを養う。6番、地域の産物、食文化について学ぶ。7番、食

料生産の流れを正しく理解する。こういった取組目標が設定されております。先ほど来から御説明しております取組を通して、今後も安全・安心でおいしい給食の提供に努めてまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○平谷市長 今まで中学校全員給食の流れで取組をしてまいりましたが、これに合わせて、小学校の給食費無償化になってきて、給食を取り巻く環境が大きく変化をしてきているという状況だと思っております。これについて、委員の皆様方から何かございますか。村上節子委員さん、どうですか。

○村上（節）委員 村上です。給食、これは絶対に大切と思ってまして、人間って食べないと、栄養を取らないと生きていくことができない。もう本当に基礎の基なので、朝御飯に何を食べたか、お昼御飯に何を食べたかとかという、量というよりは中身がどうなのかというのがとても気になっています。

うちでも子供に、朝、保育所とか幼稚園のとき、赤、黄、緑といって何かシートを作ってくれて、赤の中にはお肉とかの絵が描いてあって、それに色を塗って、子供たちがそれを意識して、赤、黄、緑がそろってるかなとか言いながら大きくなったんですね。それが何か小学校とか入ると、そういう時間があまり取られないのか、子供たちが、赤、黄、緑、そろってるかなと言いながら御飯を食べることはなくなってきて、学校で出される給食の、今日の献立、その中には何が入ってますって丁寧に給食の紙を作ってくれてるんですけど、それを親は眺めるけど、子供は眺めないという。眺めたとしても、今日は好きなものだ、嫌いなものだというメニューを見るだけというのがどうしたものかなと思っていました。先ほど写真にもありましたように、学校で栄養士さんとかが黒板とかを使って、こういう栄養があるよとか、そういう学習、教育として指導してくれているというのが大変ありがたいなと思います。そこにもう一步踏み込んでもらって、例えばキャベツの中にはビタミンCがあるとか、ある程度学年が大きくなってきたら、そういう細かいところも含めて指導してもらえたら、今日は何かビタミンBをたくさん取れたとか、例えば口内炎ができたなら亜鉛を多めに取ろうとか、大人になったときにも意識ができれば、病院通いも減るのかなと考えたら、本当に幼少期の給食、食育というのは大切だと思います。

○平谷市長 井上課長さん、よろしく申し上げます。濱本委員さん、どうですか。

○濱本委員 私も親として、本当に給食でバランスの取れた食事をいただけるということに頼り切っていた一人なので、中学校も全員給食ということ、大変ありがたいなと思います。栄養面のメリット、食育としてのメリットなどたくさ

んありますが、その分、これからいろんな取り組むべき課題もあって、御苦勞をおかけすることもあると思いますが、よろしく願いいたします。

○平谷市長 奥田委員さん。

○奥田委員 私も食育がすごく大切だということを改めて思っています。村上節子委員さんも言われましたけど、給食食べながら、これはどういう狙いで、どういうことが体によくて、健康面でいいんだということを、子供は知らないで食べていると思うんですね。小さいうちから好き嫌いをしないで幅広く食べるということが、自分の健康の土台になるということを、学校の中でポイントとして教えていただければなと思います。

そこで1点要望なんですけど、私は子供が食物を作るという教育が大切だと思っています。具体的には、御調西小学校などでは、米を子供たちが作ってます。作った米を道の駅で販売しているというのを聞きましたけど、もう本当に小さいうちから、米を作るということはどういうことなのかと、大変な場面もあると思うんですが、それをやりきって、ああ、こういうふうにするんだなという実感、また食べ物に対する思いもしっかり伝わってくると思います。町なかの学校は難しいかもしれないけど、郊外にある学校で畑があるところであれば、いろいろ地元の方に協力いただいて、米以外でもナスビやキュウリを作ったり、いくらでもできると思うので、そうやって作って、自分たちで頂いてみるという、それもすごい教育じゃないかなと思います。

まあ広い意味での食育ということになると思うんですが、そんな教育を小さいうちからやっていくと、成長の中で農業というものが人を育てるということ、すごく大きいと思いますので、そんなところにも焦点を当てていただければなと思います。

○平谷市長 村上正則委員さん。

○村上（正）委員 給食はやはり規範意識とか感謝の心を育むんですね。先ほどから出てるような体験型の生きた授業だと思うんです。これだけのバランスの取れた栄養を継続的に提供できるのは、家庭じゃなかなか難しいと思うんです。しかし、そういうことにもかかわらず、給食を単なる学校の提供するサービスとか、業務とか、その程度にしか思っていない人もかなりいるんじゃないかなと思うんです。ですからもっと、これは教育の一環ですと、教育活動の1つなんですよという連動というのか、そういうものをもっと保護者に押し出してほしいと思います。以上です。

○平谷市長 中学校で全員給食してくれるから楽になったで終わらせないようにということだと思います。昔、私が中学校で教員をしていたときには、給食な

んか到底食べられる環境じゃなかった。そこまでいったというだけでも何十年かかったかという話なんです。新しい時代に入ったのと合わせて、楽になったということは当然あるんですけど、それをいかに教育につなげていくかというのは、教育委員会事務局としてしっかり考えていただきたいと思います。

それから、よく地産地消という話が出てきますけど、これほど幅広に捉えられる言葉もなくて、例えば世羅町で地産地消と言っても、米はいいけど、ほかのものはどうするんだと、こうなるんですね。だから地産地消のエリアの解釈、県内産でみても26.3%ぐらいでしょう。だから、尾道の地元産だけで対応できる状況じゃないので、地産地消というのは捉え方を幅広に考えたほうがいいように思います。地産地消の考え方は、広島県産ぐらいのところ、その率を上げていくように整理をしたほうがいいと思うんですが、教育委員さん、それでよろしいですか。

○濱本委員 はい。

○平谷市長 庶務課長さん、そういうことで、広島県産で地産地消を進めていくような感じでやっていただいたらと思います。

それから、小学生の食べる米の量と中学生の食べる米の量は違うんだろうと思うんですが、その辺はどのようになっているのでしょうか。

○井上庶務課長 食材の量は、小学校低学年、中学年、高学年、あと中学校でやっぱり作る量というのは変えているとは聞いております。どれくらい違うかというところまでは把握できていない状況です。

○平谷市長 尾道高校の食堂なんですが、給食関係者と話をすると、米30キロが1万6,800円だったのが2万円になった。取り扱っている米を見たら、米のかけらがいっぱいなんです。それで1日120キロ食べるんです。だから1日、米代だけで8万円。来年度は米の価格が下がるという話ですが、子供たちは食べざかりなんです。特にスポーツしている子とかはたくさん食べるんです。中学生で米の量、どのくらいですか、どんぶりで2杯かな。中学生の女の子は少食になるのかな。そんなには食べないかな。

○濱本委員 食べないですね。

○平谷市長 その分、男の子が食べるのかな。実際、その辺はどうなんかな。

○井上庶務課長 すみません。ちょっとデータを持ち合わせておりません。

○平谷市長 多分運動してる子は、お昼をしっかり食べたいと思う子が多いと思うんだけど、中学生の女の子になると、何か弁当の米の量が少なくなっているんじゃないかな。年頃なんだと思うんだけど。ご飯のつき方、配膳するとき。今、因島はどうなってるのかな、配膳。学校で上手に調整しているのかな。

○濱本委員 そうですね、うまく調整しているかも知れません。

○平谷市長 米が足りないという声はないですか。

○井上庶務課長 はい、そういった声は聞いてはないですね。

○平谷市長 お腹いっぱい食べられないとかいうのはないのかな。

○井上庶務課長 はい。

○平谷市長 多分、成長期なので、どのような形で食べるのかというのは個人によって違うのではないかと思います。その辺りも、とりわけ中学校はこのたびの学校給食無償の対象になってないので、どのような形で、中学校全員給食になったときに給食提供するのかというのは、課題意識を持っていただいたらと思います。

これから実際に給食が展開される中で、課題が出てきたときとか、報告いただきながら、尾道の学校給食が地域にとっても、また子供たちにとっても、保護者にしても感謝していただくようなことで進んでいってほしいと思います。

そして、先生方が給食のときに、今日のおかずのこれはねとか、何か一言言っていたりというようなことができたなら、このお米はねとか言って、御調町の農家の人たちがとか、何かそういう言葉を添えると食に対して興味を持つんじゃないか思うんで、指導をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、本日は2つのテーマでそれぞれ教育委員さんに意見をいただいてまいりましたが、ほかに何かございますか。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○平谷市長 それでは、以上で協議を終わりたいと思います。

最後に教育の果たす役割、私どもは希望だと思ひます。今後とも皆さん方の声、また市民の声をしっかり受け止めて、教育内容がさらに充実するよう、御支援、御協力をお願ひしたいと思ひます。本日は大変ありがとうございました。

それでは事務局にお願ひします。

○井上庶務課長 ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回尾道市総合教育会議を閉会いたします。皆様、お疲れさまでした。

午後2時55分 閉会